第１回　多摩市自治推進委員会　要点記録

平成２８年１１月１７日（木）１８：３０～２０：４０
多摩市役所３階　特別会議室

出席者：和田委員、西川委員、島野委員、髙澤委員、小城委員、冨田委員、市長
事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事
審　議：今後の取り組みについて

□ 開会

事 務 局　　第１回目の第六期多摩市自治推進委員会を開催する。進行については、委員長が決定するまで事務局が行う。始めに委嘱状の交付を行う。

委員全員に委嘱状交付が行われた。

次に、市長より挨拶する。

１　市長挨拶

市　　長　　多摩市自治基本条例は、平成１６年に施行され、今年で１２年になる。この条例は、「自分たちのまちは自分たちでつくる」からできたもので、私自身も市民委員として携わってきた。当時は、市民自治、コミュニティが活発であり、市民参画というものが多くの市民に知られ市民がまちづくり関わっている感覚があったが、その状況が変化してきている。

多摩市では、多摩ニュータウンの開発時に移住してきた方が多く、当時３０～４０歳代で子ども多く、学校もどんどん新設していた時代であった。それから４０年近くが経ち、その市民が６０～７０歳代になり人口ピラミッドの形が変形している状態である。

これは、現在多摩市が、第五次多摩市総合計画第２期基本計画でも挙げている「健幸都市（スマートウェルネスシティ）・多摩の創造」にも関係している。市民の信頼関係や、コミュニティの強い地域をさらに活性化し、自分たちのまちは自分たちでつくるという想いをもっていただきたい。

現状の課題としては、行政にとっても、ＮＰＯ法人等の活動法人にとっても、どうしたら市民自治のあり方を推進できるかであり、転換期にきている。

行政には行政の役割があり、内側から発信していく必要がる。また、議会には議会の役割があるが、行政と議会のいわば内部のみで議論していても、よりよい自治をつくることができない。市民の参加と意見が必要である。今回、本委員会に諮問は行わないが、自治について、大きな道筋を作れるような議論をお願いしたい。この２年間大いに議論していただき、市民一人ひとりが主役のまちづくりを推進していただきたい。

２　委員紹介

事 務 局　　次に委員紹介に移りたい。

各委員から自己紹介が行われた。

事 務 局　　次に、職員の紹介を行う。

（職員の紹介が行われた後、企画政策部長より挨拶があった。

企画政策部長　　この条例ができた当初は市職員も意識を高く持っていた。現在、市民参画については、転換期をむかえているように感じる。これから２年間の期間中、皆さんの日頃の経験から、市政の様々なご意見をいただければと思う。至らない点もあるが、事務局も皆さんと力を合わせて第六期の委員会が活発に活動いただけるよう努めさせていただくので、ご協力お願いしたい。

３　多摩市自治基本条例について

事 務 局　　次に、自治基本条例について説明する。

事務局より、資料に基づき説明を行った。

４　委員長及び副委員長の選任

事 務 局　　次に、委員長、副委員長の選任に移りたい。どなたか自薦、他薦はあるか。

委　　員　　委員長、副委員長の任期や、改選等はあるか。また市からの推薦はあるか。

事 務 局　　これまでは任期２年でお願いしているが、特に定めがないので、任期を定めずに何かあれば改選するということでどうか。

全員了承

委　　員　　今後、議論の展開で何かあれば改選するとして、和田委員のご経験から、和田委員を委員長に推薦したい。

委員全員の賛成により、和田委員を委員長に選任した。

事 務 局　　副委員長はいかがか。

委 員 長　　地域コミュニティに知見のある西川委員はいかがか。

委員全員の賛成により、和田委員を委員長に選任した。

事 務 局　　委員長、副委員長から就任にあたって一言お願いしたい。

委 員 長　　委員の皆さんの意見を多く聞き、議論を深めていきたい。委員長の任期等についても、皆さんと話し合いながら決めていきたい。

副委員長　　皆さんとの議論が進めば、自ずと何かできてくると思う。これからよろしくお願いしたい。

事 務 局　　これ以降の進行は委員長にお願いする。

５　会議運営に関する事項の確認について

委 員 長　　まず、会議運営に関する事項の確認について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料に基づき説明を行った。

委 員 長　　事務局の提案に対し、意見、質問等はあるか。

傍聴については、会議前に人数等を確認する必要はあるか。

事 務 局　　特に確認を行う必要はない。

６これまでの取り組みについて

委 員 長　　では次に、これまでの委員会の取り組みについて、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料に基づき説明を行った。

委 員 長　　これまでの委員会の取り組みについて意見はあるか。

委　　員　　「たまおが行く」は何部販売されたのか。また、なぜ有料にしたのか。現在でも販売しているのか。どの年代が購入したのだろうか。

事 務 局　　２２４部売れ、若い年代が多いと書店から聞いている。無料で配布するのではなく、「興味のある方に読んでいただきたい。」という前期の委員会の意向により、市内の書店等で販売することにした。現在は、販売を終了している。

委　　員　　２２４部販売されたとういう実績をどう見るべきか。購入した人の詳細が分かったほうが資料集計できて、良かったのでなないか。「たまおが行く」は、現在は見ることができないのか。

事 務 局　　現在は、多摩市公式ホームページ等で読むことができる。

副委員長　　文字媒体を読む人が減少している中で、文字媒体を読む人への参画を促していくのか、文字媒体を読まない人も取り込むのかで、目指すものが変わってくると思う。

委　　員　　ホームページの「たまおが行く」のページのアクセス数がわかると良いと思う。

事 務 局　　確認し、次回の委員会で報告する。

委 員 長　　「たまおが行く」の全部は読まなくても、冊子の中の地図に載っているカフェやお店など、必要な部分だけ見る人もいると思う。どんな入口からでも、入り方でも良いのではないかと思う。それが市民参画につながることもある。

次に、今後の取り組みと現状について事務局から説明をお願いしたい。

事務局より、資料に基づき説明を行った。

委 員 長　　今期も市長からの諮問はないとのことであるが、事務局から説明のあった市民参画の減少についての課題を踏まえ議論し、今後、２回から３回の本委員会の議論で今期のテーマを決めていきたいと思う。

副委員長　　審議会や懇親会は定員が決まっていると思うが、公募市民の応募数はどのように推移しているのだろうか。

事 務 局　　集計をとったことはないが、実感としては、減少傾向にある。

委 員 長　　応募者数の推移がわかると、課題が見えてくるかもしれない。

副委員長　　アンケートやパブリックコメントでは、案件によって参加数が変わってくると思う。自分にとって関心のある案件だと件数が多くなると思う。例えば、自宅近くの図書館の閉鎖についてだと関心も高くなり参加数が増えると思う。

事 務 局　　パブリックコメントについては、行政側に近い計画の意見を求める場合では回答が少ないと感じている。

委 員 長　　現在でもコミュニティセンターや各地域では、多くのお祭りやイベントを開催しており、大学の学生も多く参加している。また、市民の参加も多いと感じている。このよ

うに、多様なコミュニティはあるのだと思う。参加者がリピーターなのか、初参加であるのかはわからないが、多くの市民が参加しているのであれば、どのようにコミュニティを広げていくかを検討する必要がある。

委　　員　情報の動きから始め、人の動きへとつなげていけると良い。

委　　員　市民が参加するボランティア活動やイベントについて、実績等を確認したい。

委　　員　市民参加にも、様々なチャンネルがあり、主催者も目的が明確な場合とそうでない場合がある。この多種多様な選択肢がいいものなのか悪いものなのか、いろいろ意見はあると思う。

委　　員　市民参加の輪が広がるには、どのようにしたら良いか。多摩市には多くの団地があるが、隣の団地のことはあまり知らないのではないか。

例えば、アナログである回覧板でも良いから、新聞を読まない人も伝えられる方法があるといいと思う。災害掲示板に平常時のお知らせもリンクできるようにしたら良いのではないか。

委　　員　「たまおが行く」の内容は本当に素晴らしいと思う。しかし、市全体に広がっていない。そこが問題であり、どう展開するかが重要である。

「たまおが行く」に限らず、投げかけで終わってしまっているように感じる。“仕掛け”が必要である。

委　　員　こういう場で「若い」とは、どのくらいの年代を指すのか。

先ほど、事務局から「たまおが行く」について、多くの若い人も購入したと言っていたが、１０歳代～２０歳代は購入しないと思う。

事 務 局　人口ビジョンを作成する上では、若いとは２０歳代～３０歳代を想定している。

委 員 長　現代情勢では、年代とライフステージにずれが生じている。若い世代には、学生やサラリーマン等が入るがサラリーマンでも家族や子どもが「いる・いない」で変わってくるので、難しい部分ではある。「たまおが行く」で盛り上がったので、この素晴らしい資料をどのように活かすかも重要であると思う。

委　　員　自治を学んでいる学生が購入した可能性や、多摩市民以外の方が読んでいる可能性もある。

委　　員　最近では近所付き合いが減ってきている。その中で、元気高齢者が増加している。また、マンション等では、子どもたちだけで宿題をやっている姿を見ることがある。この現状をうまく利用し、コラボレーションしてシャッターの降りているお店等の場所に呼んで、勉強会など交流の場を作ってはどうか。「たまおが行く」にはヒントが詰まっていると思う。

副委員長　市が行うアンケートやパブリックコメントは、市の計画がわかっている人しか参加しない。例えば図書館の閉館など自分の身近な問題については敏感であり、反応もでてくる。でも問題は、そもそも図書館がどうやってできて、どのように運営されているのか理解が必要である。図書館を利用し、コミュニティの中で、運営等について担い手になればなるほど、愛着がわいてくる。その感覚が大切である。また、自治を進めるためには「参画の階段」のようなプロセスが必要である。

今の「市民参画の方法」では、時間のある人しか意見を言わない。作り方が重要だと

思う。

委　　員　　市民も公共施設等を「自分の居場所」や「大切なもの」として感じてほしい。

委　　員　　パブリックコメント等の市民の意見がどのように行政に影響しているのかも大切である。市民意見に対するフィードバックや変化が見られないと、市民も参加する意義を見出せなくなる。市民意見がどのように市の計画等に反映されたのか実績が知りたい。また自治推進について、市はどのように大切にしてきたのか、実績や証拠を示してほしい。

副委員長　　行政の内容は見えにくいことが多いが、市民の意見の反映が蓄積されると見えてくることもある。現代では、職員の市民サービスが当たり前になっており、市民からの苦情なども多くなっていると思う。これをどう変えるのか。市民の意見を取り入れられるのか、または取り入れられないのかは別として、意見について、どのように行政が結論を出したかがわかると、何をすればいいのかが見えてくるのではないか。

委 員 長　　今後は、行政と市民とのコミュニケーションの取り方を変えなければならないと思う。今日は、事務局から提出された資料により、いろいろな議論ができたと思う。本日、委員から要求のあった資料を事務局より提示していただき、次回は、テーマ設定についてさらに議論を深めていきたい。

８　今後の日程について

事 務 局　　事務局より、資料に基づき説明を行った。

委 員 長　　次回は、１２月２日金曜日に会議を行う。これで第１回委員会を閉会する。

□　閉会